

2018年7月23日発行

# けんいちだより

発行責任者：(公明党 さいたま市議会議員) さいとう健一 住所：さいたま市見沼区深作 3-22-7

## 6月定例会 活動報告2

さいたま市議会6月定例会が6月6日から6月29日まで24日間の会期で開催しました。

今定例会で、常任委員会では市民生活委員会、特別委員会では決算特別委員会と議会改革特別委員会に所属となりました。また市民生活委員会では副委員長の大任を拝することになりました。さいたま市民の皆様が安心・安全に日常生活を送れるように、更なる行政サービスの利便性に向けて取り組んで参りますので、よろしくお願ひします。

議案内容と審議結果につきましては、さいたま市議会ホームページの「トップページ」>議会資料検索(今日の会議)>

(URL) <https://www.powerfinder-asp.net/saitama/>→文書一覧>本会議>平成30年>6月定例会>審議結果にてご確認いただけます。



副委員長就任の挨拶を行う  
さいとう健一

## 6月18日 市民生活委員会で議案外質問しました!

### 1. 区役所窓口ワンストップサービス向上について

#### — 市民満足度の向上のために! —

(1) 死亡時の手続簡略化について伺います。

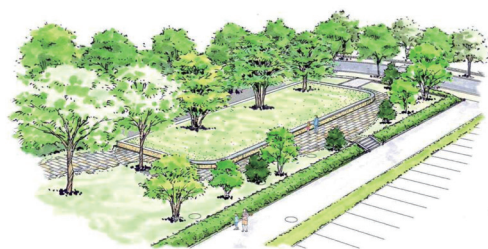
<質問要旨>

人が亡くなると、遺族の方はさまざまな行政手続が発生いたします。死亡に特化したワンストップ窓口を設置することで、行政手続きに来られた遺族は、どこで何をしたらいいのか分からないという心理的負担軽減と届出作成の負担軽減となります。死亡時の手続簡略化で、CS90 に向けた市民満足度の向上につながるワンストップ窓口の設置提案をいたしました。

<答弁要旨>

本市では、平成20年4月から区役所窓口サービスの向上の一環といたしまして、引っ越しや結婚といったライフイベントの際に複数の窓口で届出や申請が必要なものを1か所に集約をいたしました窓口申請パッケージ工房というものを設置しております。死亡に特化したワンストップ窓口につきましては、遺族の方のもちろん負担軽減となり、さらなる市民サービスの向上にもつながるものと考えておりますが、ワンストップにすることによって、それ以上に待ち時間がふえてしまうという場合がございます。手続のさらなる簡素化については、引き続き検討して参ります。

## 思い出の里市営霊園に「樹林型合葬式墓地」建設



さいたま市では、市内5か所に24,000区画の市営霊園がありますが、市民の墓地に対する高いニーズに応えるため、さいたま市営霊園思い出の里(見沼区大谷)にある空き地を活用し樹林型合葬式墓地施設を整備することになりました。

樹林型合葬式墓地の完成予定は、平成31年3月となっています。全体で1万6千人分のお墓となります。遺骨は、絹製の袋に包んで埋葬することにより、数十年を経過すると土へかえってゆ

きます。これによって、市民が待ち望んでいた市営墓地として、平成31年度から年間500体の募集を20年間毎年おこなうこととなります。

# 市長に児童虐待防止対策の強化を求める緊急要望を提出!!



公明党さいたま市議会議員団として、市長に対し児童虐待防止対策の強化を求める要望書を提出(さいとう健一は左から2番目)

東京都目黒区で3月、虐待された5歳の女の子が亡くなった事件を受け、警察と児童相談所との連携強化が重要視されています。これらのことから、警察との情報共有を緊密に連携して行うこと、また、児童虐待事案が深刻化・複雑化している状況に鑑み、医師、弁護士等の専門職の活用により、児童相談所に通告や情報提供できるよう、関係機関との協力体制を強化することなどについて、緊急要望しました。

## 児童虐待防止対策の強化を求める要望書の3項目

1. 虐待が疑われる児童や支援を必要としている家庭を早期に発見し、地域社会からの孤立を防ぐとともに、適切な対応が可能となるよう、警察との情報共有を緊密に連携して行うこと。また、教育機関や医療機関等がこのような事案を発見した場合に、迅速かつ適切に児童相談所に通告や情報提供できるよう、関係機関との協力体制を強化すること。
2. 支援を行っている家庭の転居に伴うケースの移管に当たっては、支援の隙間が生じないよう、転居先やこれまでの対応状況等の必要な情報を共有するなど、児童相談所間で十分に連携を図ること。
3. 児童虐待事案が深刻化・複雑化している状況に鑑み、医師、弁護士等の専門職の活用を図るとともに、研修等により職員の資質の向上に努めるなど、児童相談所の組織体制を強化すること。

## LINEを活用した「悩み相談」が実現!!

さいたま市議会では、市立中・高等学校の生徒を対象に、自殺やいじめ相談を実施することを議決しました。期間は平成30年8月から9月となります。特に夏休み明けは、生徒の心の揺れ動きが最も多い時期であり、これまでも「さいたま市24時間子ども SOS 窓口」においても、相談件数が増加していました。気持ちが落ち込んでいる生徒の心に寄り添うことが重要であることから、この時期の選定となりました。



「悩み相談」では、子どもからの SOS をいかに早くキャッチし、適切に対処するかが大切になります。10代の若者がLINEなどSNSを利用する時間は音声電話の約20倍に上がります。そのため、既存の電話中心のいじめ相談に加え、10代に身近なLINEで相談を受ける窓口の開設を、公明党会派で提案をしておりました。なお、通年事業としての実施については、成果の検証を踏まえながら検討していくとしています。